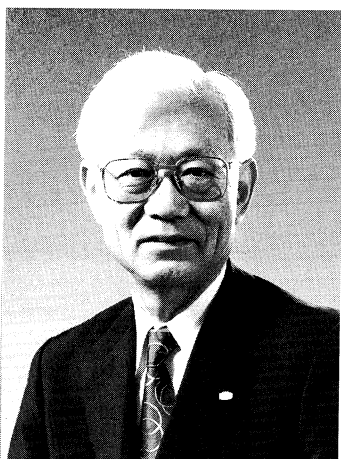


名 誉 会 員 の 紹 介

(平成13年5月18日第43回通常総会において推挙)



戸 田 巖 君

と だ いわお

(昭和9年2月1日生)

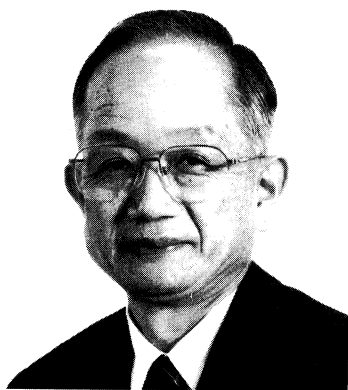
昭和33年 3月	東京大学工学部大学院修士課程修了
昭和33年 4月	日本電信電話公社電気通信研究所入社
昭和60年 9月	日本電信電話株式会社理事情報通信処理研究所長
昭和63年 6月	同社常務取締役研究開発技術本部長
平成 4年 6月	富士通株式会社常務取締役
平成 6年 6月	同社ネットワーク開発本部長兼務
平成 9年 6月	株式会社富士通研究所フェロー

本会関係略歴

- (1) 昭和56年2月入会 (会員番号196007959)
- (2) 分散システム研究会主査 (昭和56～58年度)
- (3) 理事 (昭和56～57年度)
- (4) 副会長 (平成元年～2年度)
- (5) 会長 (平成9～10年度)
- (6) 平成11年度功績賞

平 成 12 年 度 功 績 賞

(会員番号順)



稲 垣 康 善 君

いな がき やす よし

(昭和14年8月19日生)

稲垣康善君は、永年にわたって情報処理の基礎理論分野の研究に携わり、数々の優れた業績をあげられました。

我が国の情報処理技術の萌芽期からその基礎理論分野の重要性に着目し、論理回路の信頼性向上に関する研究、確率論理、論理回路の最適設計、符号理論、オートマトンと形式言語理論、計算論などの研究で先駆的な業績をあげられました。特に、正規表現と有限オートマトンの研究は、我が国のこの分野の研究の先駆けとなり、確率オートマトンと線形空間オートマトン、セルオートマトン、決定性プッシュダウンオートマトンの

決定問題、 ω 正規表現の公理系などの研究を通じて、我が国の情報処理基礎理論分野の研究の発展に大きく貢献されました。

さらに、ソフトウェアの重要性の増大に伴い、プログラム理論、データグラフの理論、アルゴリズムの設計と解析、項書換え系、抽象データ型、ソフトウェアの代数的仕様記述に基づく検証と自動生成などの分野を開拓されるとともに、自然言語処理、不完全な知識に基づく推論、マルチモーダルインタフェース、モバイルコンピューティング等の分野でも先進的な数多くの研究を推進され、今日の情報処理技術の基礎学問体系の確立に貢献されました。

名古屋大学および三重大学においては、情報処理分野の優秀な人材を育成されるとともに、大学における情報処理技術の利用の促進にも努められ、名古屋大学の工学研究科長や大型計算機センター長などを歴任されて、教育研究環境の整備に貢献されました。また、情報処理の基礎理論分野の研究者の交流の場として、LAシンポジウムの立ち上げと運営に尽力され、数学・物理学・電気電子工学・情報工学など異なる背景を持った研究者の交流の場を提供し、若手研究者の育成と基礎理論分野の学際的研究環境の確立に多大な貢献をされました。

以上に加えて、本学会の理事および調査研究運営委員会委員長として学会の発展に尽力されました。さらに、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、人工知能学会など多くの学会の役員も歴任され、日本の情報処理の学術レベルの向上に大きく貢献されました。

このように、我が国の情報処理分野、とりわけ基礎理論分野の発展に尽くされた功績は誠に顕著であります。